

令和元年 9月

# 榊原 文 学位論文審査要旨

主 査 兼 子 幸 一  
副主査 黒 沢 洋 一  
同 尾 崎 米 厚

## 主論文

Association between mothers' problematic Internet use and maternal recognition of child abuse

(母親の問題のあるインターネット使用と母親の児童虐待認識との関連)

(著者：榊原文、芳我ちより、金城文、尾崎米厚)

令和元年 Child Abuse & Neglect 掲載予定

## 参考論文

1. ソーシャル・キャピタルと産後うつ有病率との関連-都道府県単位の生態学的研究-

(著者：榊原文、濱野強、篠原亮次、秋山有佳、中川昭生、山縣然太郎、尾崎米厚)

平成29年 厚生指標 64巻 21頁～27頁

2. 生後3-4か月の子どもを持つ母親の育児困難感とソーシャル・キャピタルとの関連-都道府県単位の生態学的研究-

(著者：榊原文、濱野強、篠原亮次、秋山有佳、中川昭生、山縣然太郎、尾崎米厚)

平成30年 厚生指標 65巻 15頁～21頁

# 審査結果の要旨

本研究は、2016年度に島根県松江市で実施された4か月、1歳6か月、3歳の各健診結果と、母親の問題のあるネット使用（PIU）の有無を判定する調査票の結果をリンクしたデータを用いて、母親のPIUと児童虐待認識の関連を明らかにしたものである。虐待認識の有無を従属変数、母親のPIUの有無を独立変数とし、共変量を投入して年齢別にロジスティック回帰分析を行った結果、母親がPIUの場合、そうでない母親と比較して、約10～30倍高い割合で虐待を認識していることが示唆された。PIUに関する先行研究の多くが青少年に焦点をあてている中、本論文は、実証データに基づき、母親のPIUが不適切な養育と関連するという仮説を世界初で提唱し、検証している。母親のPIUを警告する学術的にも社会的にも重要な知見を示した点で、今後の学術研究の発展に寄与できたものと認める。